

話を聞くためのスキルを育てる —合言葉を使って—

1

本実践に関連する児童生徒の実態

対象 小学生

- 課題
 - ・集中力が続かない。
 - ・話を最後まで聞けず、気になることがあるとすぐ発言してしまう。
 - ・自分の思いが通らないとすぐ泣いてしまう。
- 強み
 - ・事前約束をすると頑張ることができる。
 - ・人の話の内容を理解することができる。
 - ・自分の気持ちを言葉にして伝えることができる。

2

指導目標・指導仮説

教科等及び単元（題材）名
自立活動 「ききかた名人になろう」

目標（本実践終了時の期待する子供の姿）
話を聞く時に、話をする人の方を向いて、よい姿勢で聞くことを意識して話を聞くことができる。

指導仮説
授業など話を聞く場面で、話を聞く時の約束を短い合言葉にすることで、児童は、話を集中して聞くことができるだろう。

児童生徒の実態

3

指導仮説の具体的な内容と評価内容・方法

◆指導仮説の具体的な内容

話を聞く時のポイントを「相手を見ること」「いい姿勢で聞くこと」「最後まで聞くこと」の3つに絞り指導する。それを踏まえて、「あ（相手を見て）・い（いい姿勢で）・ず（ずっと最後まで）」という合言葉を作り、話を始める初めに声をかけて話を聞く時の約束として意識させる。

◆評価方法（どのような方法で何を評価するか）

話を聞く場面で、「相手を見て、いい姿勢で、最後まで聞いているか」を行動観察で評価する。

4

指導の実際①

話を聞く時のポイントを知ろう
話を聞く時の姿勢や大切にすることなどを知らせる。

- 【聞き方のポイント】
- ①話を聞く時は、話をしている人の方を向く。
 - ②いい姿勢で聞く。
いい姿勢は「足がビタ」「背筋がピン」としていること。
 - ③最後まで話を聞くこと

「おちたおちた」ゲームを使って



「おちた・おちた」ゲームで、聞く時の視線や姿勢、落ちたものを最後まで聞くことなど、話を聞く時のポイントを意識させた。

指導の実際②

話を聞く時の合言葉
話を聞く時のポイントを、合言葉にして意識させた。

指導の実際①で行った「聞く時のポイント」を「あいず」という合言葉にしてより簡単にした。

「あ・・・相手を見て
「い・・・いい姿勢で
「ず・・・ずっと最後まで

動物カードを使って



動物カードで自分の机にある動物カードの動物が呼ばれたらカードを取るというルールでカルタをした。自分の机にない動物もあるので、最後まで聞くことを意識させた。

6

指導の実際③

聞き方名人になろう



動物カードで行ったカルタを生かして、「よく聞くカルタ」を使って聞く時のポイントを確認した。
 「よく聞くカルタ」では、カードを選ぶために「小さな赤いまる」など3つのことを聞く必要があるため、聞く意識をより持たせることができた。

7

指導の実際④

授業に生かす



話をする前に、話を聞く時の合言葉を一緒に言うことで、話を聞く時のポイントを意識させた。

8

実践前後での児童生徒の変容

実践前	実践後
<ul style="list-style-type: none"> 話を始めても、鉛筆を触ったり、他のことに気をとられている姿が多く見られた。 聞き逃しや、勝手に判断して行動することが多くあった。 	<ul style="list-style-type: none"> 話を聞く時には、話す人を見ることが短い時間だができるようになった。 話を集中して聞いている時間が増えてきた。 思い込みで勝手に活動を進めることが少なくなってきた。

9

評価

- 児童生徒は目標を達成したか。
 - ・概ね達成した。
- 判断の理由・根拠
 - ・話を始める前に、「話を聞く時のポイントは？」「あ・い・ずだよ。」と声をかけることで、話す人を向くことや、いい姿勢をとるなど話を聞く態勢になることができた。
 - ・教員がまだ声をかけないと、そのまま自分がしていることや、他のことに気をとられることがあった。
 - ・自分から「『あ・い・ず』だよ。」という発言もあった。

10

指導仮説の検証

- 指導の成果
 - ・事前約束をすると頑張れるという児童の強みを生かして、話を聞く時の約束を決め、それを合言葉にしたことで、短い時間で話を聞くことに意識をもたせることができるようになった。
- 課題
 - ・いい姿勢が視覚的にもわかるように、見本となる写真などを掲示するとよかった。
 - ・「相手を見る」、「いい姿勢」、「最後まで聞けたか」の3つの視点で自分で振り返らせると良かった。

11

指導の改善案

- 成果・課題を踏まえた改善案
 - ・合言葉を今後も継続して使っていくとともに、カードを用いて声をかけなくても視覚的に意識できるようにしていく。
 - ・話す内容をしぼり、話をする時間を短くすることで、児童が「最後までできた。」という成功体験を積み重ねる。

12